第７章　施設・設備等

| |
|---|
| 大学・学部<br>（施設・設備等の整備）<br>　Ａ群　大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性<br>（利用上の配慮）<br>　Ａ群・施設・設備面における障害者への配慮の状況<br><br>大学院<br>（施設・設備等）<br>　Ａ群　大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性<br>（維持・管理体制）<br>　Ａ群　大学院研究科の施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況 |

本学が所在する宇治市は、平安朝のいにしえより名勝・史跡に富む景勝の地として知られ、近年は、産業・経済・教育・文化の発展に力を注ぎ、人口 18 万人余を擁する府内第２の中核都市として発展を続けている。キャンパスは、京都・奈良を結ぶ国道 24 号（旧奈良街道）に面し、周辺は巨椋池干拓により拓かれた静かな農村地帯で、京都・奈良にも近く文化的環境に恵まれている。又、ＪＲ京都駅からは近鉄京都線で最寄り駅の向島まで 15 分の位置にあり、交通の便にも恵まれ、京都市内をはじめ滋賀・大阪から通学する学生も多い。

１．施設の目的

本キャンパスは、1964 年に短期大学の移転用地として購入され、1967 年（昭和 42 年）に京都文教短期大学（当時 京都家政短期大学）が移転し、その 29 年後の 1996 年に短期大学の一部を改組転換し、京都文教大学が設置された。総面積は 80.629 ㎡で、このうち、かつて短期大学の学生寮があった敷地 3.991 ㎡および短期大学専用体育館敷地 1.148 ㎡を除いた、75.490 ㎡について大学と短期大学が共用で使用している。キャンパスの中心に植えられた楠の大木を中心に、食堂・売店・図書館・校舎等が配置されている。校地は大学設置基準に定める 17.760 ㎡（収容定員１人当たり 10 ㎡×1.776 人）に対し約４倍の広さを有している。また、在学する学部生・大学院生１人当たりの校地面積は 28 ㎡（75.490 ㎡÷（大学・院 1.662 名＋短期大学 1.029 名））である。

1996 年４月、大学は、専用校舎として新築された５階建ての「普照館」と専用体育館および、既存の「光暁館」を短期大学と共用してスタートした。普照館は、学生が利用し易い学習環境をめざし１階に大学図書館、教員と学生の距離が短くなるようにということから２階には教員研究室、３・４・５階を教室という意図のもとに作られた。更に、来るべき情報化社会への対応を意識し、ノート型パソコン使用が可能な教室、少人数での使用を予定した演習室、映像機器等を設置した教室等特徴ある学科目にあわせた授業運営ができることを目的として整備され、当時としては充実した教育環境にあった。

しかしながら、その後の情報環境は当時の想定以上に激変しており、情報関連環境の整備には新しい対応が必要となり、同時に、普照館は築後 10 年が経過し、諸設備等の劣化も始まってきている。更には、現代社会学科の発足に伴い、教室、教員研究室等の対応のために既存施設を変更し、全体としての施設構想が歪んできている。短期大学についても、校舎が一部老朽化してきており、大学院の設置に併せ新校舎が建設されるなど、大学設置時点とは校舎の使用実態も変わってきている。更には、宇治キャンパ

スの 40 年間の変遷の過程で諸施設の使用勝手も悪くなっており、宇治キャンパス全体としての再整備は不可欠となっている。先行きの学園の財政環境を展望すれば、大きな投資は慎重にならざるを得ないが、学生、教職員にとって 21 世紀の教育・研究の場として相応しいキャンパスに整備していくことが目的であり、今回の自己点検・評価の結果を含め、近い将来の構想計画に反映していくことが当面の目的である。旧学生寮をクラブ・サークル活動部室及び短期大学のピアノレッスン室として使用してきたが、2006 年度中には撤去する必要があり、これに伴い、宇治キャンパスの将来計画の策定が可及的速やかに必要になった。そのために、法人・大学・短期大学の関係教職員で構成する「宇治キャンパス将来構想検討委員会」が 2003 年 11 月に設けられ、活動が開始した。ここで、これまで宇治キャンパスが抱えてきた基本的課題についての検討が緒に就き、方向付けが図られることになり、現在具体的な検討が行われている。

２．現状及び課題と対応

（１）教室・研究室

前述したように、宇治キャンパスは 1967 年に短期大学が京都市内より移転したことにはじまるが、その後、1991 年に短期大学の開学 30 周年を記念し、同唱館および光暁館が建設された。既にこの時の校舎建設にあたっては、大学の設置を視野に入れ計画されていた。次いで 1995 年には、大学設置のために大学専用の校舎として普照館が建設され、大学開学の４月に竣工された。次いで４年後の 1999 年の大学完成年次にあわせ、大学院および短期大学の校舎として常照館および弘誓館が新築された。現在、大学は普照館を中心に、常照館・弘誓館を短期大学と共用している。（短期大学との共用状況　　基礎データ 37.38.43）

大学が主として使用している普照館は、１階に図書館、２階に教員研究室、３・４・５階に講義室および演習室が置かれている。光暁館は、１階に健康管理センター・会議室・２階に大学・短期大学の事務室、３階に講義室・演習室、３階の一部と４階に教員研究室が設けられている。常照館は１階に法人事務局・大学院図書室、２階は講義室・演習室、３階は大学院生の共同研究室および演習室が置かれている。弘誓館は、300 人収容の大講義室３室、600 人収容大講義室１室が設けられている。

2004 年度の現代社会学科の発足に際し、講義室・演習室のシミュレーションを、時間割をベースにして行った結果、2004 年度については講義室・演習室共使用上の大きな問題はないが、2005 年度については、現代社会学科の年次進行の結果、演習室が不足する可能性があることがわかった。対応として、各教室の稼働率を上げるよう、時間割編成上での工夫は当然ながら、新たな教室構築について「宇治キャンパス将来構想検討委員会」への要望・提案を行っている。

専任教員の個人研究室は、教員が所属する学科毎に個人研究室・学科長室・学科事務室・学科共同研究室等がまとまるようにしている。今年度、現代社会学科設置に伴い短期大学から着任した教員については、当面短期大学の研究室をそのまま使用しているが、将来的には個人研究室は学科毎に集中できるよう、改善を検討している。研究室エリアには、個人研究室の他に共同研究室が各学科毎に設けられており、学科会や学科内のミーティングなどに使われている。また、文化人類学科には、地域別の共同研究室が７室設けられており、地域研究のための資料が整備され、地域研究に関するミーティング等に使用されている。大学全体の研究室の中では特に恵まれた環境にある。

（２）施設・設備の管理と利用上の配慮

キャンパスには大学事務局の他に短期大学事務局・法人事務局があり、大学・短期大学固有の管理事

項についてはそれぞれの事務局が、共通的な管理事項については法人事務局が担当している。施設・設備管理の原則は、「学校法人京都文教学園固定資産及び物品管理規程」（昭和 50 年４月１日制定）に定められており、それぞれが取得、日常管理および廃棄等をおこなっている。構内および施設の清掃は、外部業者に依託している。施設の保安・警備についても外注依託し、１日 24 時間、365 日警備員が常駐し、キャンパス出入門の管理および構内の定期パトロールを行っている。尚、これらの大学・短期大学に共通する事項の費用は、大学・短期大学がそれぞれの学生数の按分比で負担している。

防災体制については、大学・短期大学が合同で事務局中心の自衛消防隊を編成し、所轄消防署に届け出ると共に、年１回防災訓練を行っている。消防施設をはじめ構内電気設備点検、エレベーター保守点検・構内受水槽点検等の点検については、国・地方自治体の定める関係法規に従い、各種検査・点検等を行い適切に管理をしている。

障害者への配慮については、これまでに、視覚障害や聴覚障害、下肢不自由等の学生の受験があり、そのうち一部の学生が入学しており、施設・設備の利用について逐次対応してきた（点字ブロック、バリアフリー化、機器備品、サポート体制等）。また、大学の設置以降に新築された校舎は、車いす用エレベーター、トイレ、スロープ、手すり等の設備対応ができている。また車いす専用駐車場も設けてある。また 2004 年度には肢体不自由学生が校舎間の移動がスムーズに行えるように貸し出し用の電動車いすを配備した。

（３）大学院の施設・設備等

大学院の施設は、新しく建設された常照館に集約されており、最新の建物に最新の機器を備え、他の大学院と比べても充実した快適な施設･設備である。学生共同研究室にも学内ＬＡＮが接続されたため、研究上の利便性は大幅に向上している。学生数に対する研究室の広さなども充分である。

大学院専用図書館・大学院講義室・研究科長室・会議室等が設けられている。大学院生のための研究スペースとして、共同研究室・情報機器室・談話室・調査実習室、資料保管室がある。共同研究室には学生の個々の机や、ロッカー等が配置されている。情報機器室にはコンピュータ・プリンタ・プロジェクタ・コピー機はもとより、ビデオ・カメラ、ビデオ・モニター・スライドプロジェクタ・モバイルプリンタ・携帯用パソコン等、最新の視聴覚機材が備えられている。また、基本的な参照図書や主要言語の辞書、授業等に使う基本的文献が大学院専用図書館とは別に備え付けられている。入手しにくいマイナー言語の辞書も積極的に収集しており、さらに退職教員による寄贈図書も効果的に配置されている。しかし、共同研究室の出入り方法や、休日・夜間利用の手続等、学生の便宜を第一にした柔軟な管理体制の構築には改善の余地を残している。

大学院図書館については、書籍・研究誌の利用をのぞいて図書館の学習スペースの利用はキャンパス内の他の図書館と比べて多くないのが現状である。これは蔵書図書の少なさや、夜間開館時間延長サービスが行われていないこと等が影響していると考えられる。今後、問題点を整理し、大学院生の研究・教育のために積極的な利用がなされるよう、蔵書数の増加、管理運営面でのサービスの向上を検討している。

また、午後９時 20 分のスクールバス最終便が出た後も、共同研究室で研究を続ける大学院生が多いため、帰路の安全確保について、大学院として対策は課題となっている。

（４）その他の施設等

１）同唱館

講義や入学式や卒業式などの式典および学内外の講演・コンサート・学会等に幅広く使用している多目的ホールで、席数は 800 人、補助席を使うと 1200 人収容できる。音響の残響時間を自在にコントロールするアシストアコースティックシステム、光の角度や色が自在にコントロールできるテレスキャンシステム等コンピュータでプログラムされた音響・照明装置を持つ他、メディア情報関連の機器を装備している。関連施設として指月ホールがあり、ビデオ、ＴＶ、ＬＤ、ＣＤ、パソコン等のマルチメディア対応機器があり、同唱館内の中継録画や映像編集ができる編集室等高度の機能を備えている。使用に際して専任技術者が必要なため、休日等の利用がしにくいこと、また冷暖房が必要な時期の利用は光熱費がかかるため、学外への貸し出し等消極的にならざるを得ないことが課題となっている。

２）事務局

大学事務局は、学長他大学役職者の執務室と同じ光暁館２階に設けられている。もともと光暁館の２階は短期大学の事務局が置かれており、同じフロアで大学事務局もスタートした。但し、大学、短期大学事務局共、全ての課を収容するには狭く、大学はキャリアサポート課、入試課が、短期大学は就職課が別の校舎に配されている。本来的には、学生・教員へのサービスがスムーズに行える場所がもうけられるべきだが、実際にはその余裕がない。

また、大学・短期大学事務局のそれぞれの専有面積は、大学 235 ㎡、短期大学 262 ㎡であるが、大学事務局の体制整備にともなって大学職員数が短期大学より多くなっているにも拘わらず、適切な事務所スペースの確保は出来ていない。事務所スペースについては、大学・短期大学が別組織のため調整が難しく、結論を得ることができていない。現在、「宇治キャンパス将来構想検討委員会」の元に設置された、事務機構を検討する大学・短期大学合同の「宇治キャンパス事務機構整備検討小委員会」にて検討を進めている。

（５）情報処理教育のための施設・設備

本学の開学時の設置の趣旨では、教育方法の特色として「情報処理教育」を挙げており、内容としては「学生は全員ノートパソコンを用意して日常の学習・研究活動で活用し情報処理能力を身につける。」と謳っている。

現在、社会が個人に求める情報処理に対するニーズはますます高まっており、学生の情報処理教育に注力し、この分野で有為な人材を輩出することは、今後の社会において大学の果たすべき役割の重要な部分を占めていると考える。今後も文書作成や数値処理、パソコンを利用したプレゼンテーションスキルの向上や、情報検索のスキルというような領域で学習を進めるための施設・設備を拡充し、学生の能力を上げることは、本学の設置趣旨に沿うものである。

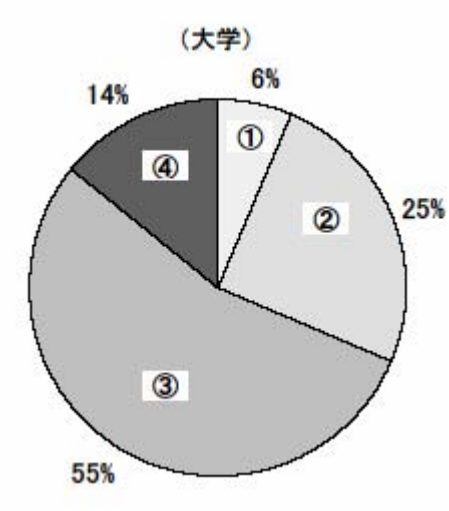
本学では、開学当時より学生全員にノートパソコンの携帯を義務づけ、学内の学習センターとしての情報図書館や情報コンセント設置の４教室（Ｆ401～Ｆ404)、デスクトップ型パソコン設置のメディア教室４教室（Ｆ405～Ｆ408）を設置し、情報処理能力の向上を図ってきた。

2000 年度のカリキュラムの改定に際しては、情報処理教育関連の授業を設置し、全学的な学内ＬＡＮを整備し、学内の主な教室・研究室・図書館を結んだ。この学内ＬＡＮを活用するために、2000 年 10 月にはメディア教室４教室の機器をマルチメディア･ネットワークに対応した機器構成に整備を行った。これにより、授業で使用しない時間帯は、学生が自由に利用できるように開放し、学習・研究活動の場としている。

さらに 2004 年度からは、現代社会学科が新設され学生数が増加すること、より高度な画像・情報等の処理が必要なことから、機器の更新、台数の増加、より処理能力の高いＰＣへの置き換えを進めた。

私立大学情報教育協議会が実施した「今後の情報環境整備予定（～2005 年）に関する調査」結果との比較で見ると、本学の情報環境整備のレベルは、学内ＬＡＮの敷設が終了し、学内・外とのインターネット接続や外部データベースの検索等が可能な状態にあり、2005 年までに e-learning や教材作成の情報化を進めるというフェーズにあり、大多数の大学と同等といえる。

（参考）私情協実施の「今後の情報環境整備予定（～2005 年度）に関する調査」より



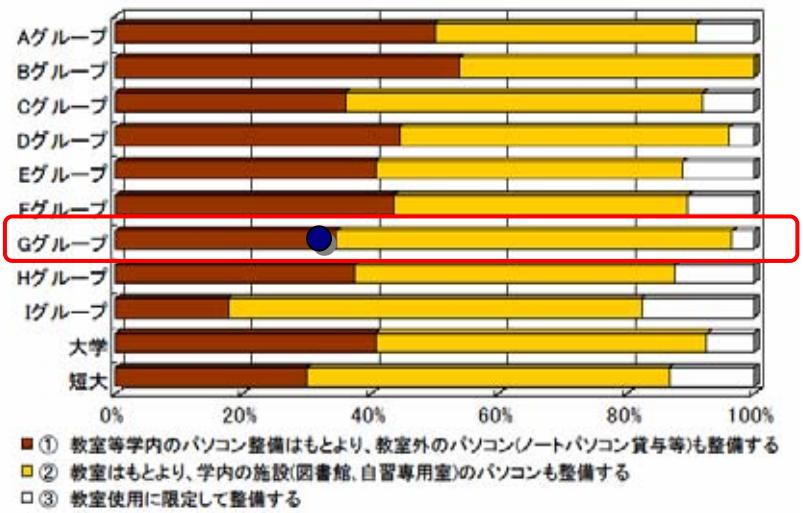

① 教室、研究室を中心とした学内 LAN を構築して、教育研究ネットワークを整備する

② ①の環境の上に、いつでも、どこからでも、情報交流が可能となるように大学全体の教育研究ネットワークを整備する

③ ②の環境の上に、職員の支援を得て組織的に教育研究の情報化（e-learning、e-リサーチ等）を実現する

④ ③の環境の上に、海外を含む他大学や社会との連携、生涯学習等を通じて、教育

教育用パソコンの整備状況については、同じく私情協が実施した「教育用パソコンの整備状況についての調査」結果からみると、本学は教室以外に、図書館にも利用できるＰＣを設定していること、学生には入学時にノートＰＣの購入を推奨し、普照館の４教室（Ｆ401～Ｆ404）の各座席に電源とＬＡＮのケーブルが設置され、授業の無いときにはいつでも使える状態になっていること等から、本学の位置付けは平均以上のレベルにあるといえる（入学定員 2000 人未満・単科・人文科学系）。




大学が配備する教育用コンピュータ１台当たりの学生数は、2002 年度において、本学のカテゴリーの

大学 7．4 人に対し、本学は、2004 年度で、10.5 人であった。本学では入学時にノートＰＣの購入を推奨しており、普照館の４教室（Ｆ401～Ｆ404）の持ち込みノートＰＣ用のＬＡＮコネクタ・電源整備した席、304 席を加えると、3.9 人／台となる。持ち込みノートＰＣの利用を前提とするとＰＣの整備台数は非常に高いといえる。

2002 年度私情協情報化投資調査結果による教育用ＰＣ整備状況の比較

| | 入学定員 2000 人未満　単科大学<br>人文科学系　の大学平均（2002 年度） | 本学<br>（2004 年度） | |
|---|---|---|---|
| | | ＰＣルーム | ノートＰＣ利用環境含む |
| 教育用ＰＣ整備 | 7.4 人／台 | 10.5 人／台 | 3.9 人／台 |

2004 年６月度のＰＣルームの利用状況調査によれば、月間延べ人数 5071 名、１日の平均利用者数が 174 名である。総学生数は 1662 名であり、平均すると毎日 10%以上の学生が利用していることになる。更に、ＰＣルーム利用者に対するアンケート結果によると、１回の利用時間は、平均 57 分で１日の平均必要時間数は、241 ログイン×約 60 分＝241 時間となる。一方、利用可能な台数は、Ｆ408（常時オープン）54 台、Ｆ407（授業以外で混雑時オープン）42 台で、１日当たり 96 台×11 時間＝1056 時間となり、利用者の集中が無ければ余裕がある状況といえる。ただ、実際には年間の時期、１日の時間帯で利用者のばらつきがあり、更に１台あたりの人数を下げていく努力は必要である。なお、学生が利用可能なＰＣを設置した教室は３教室あり、以下の通りである。

| 教室 | 利用目的 | 利用可能台数 | 利用可能なソフト | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| F408 | オープンルーム（授業の無いとき）<br>インターネット検索<br>レポート作成 | 55台 | MS Office | SPSS | SAS | Photoshop<br>イラストレーター |
| F405 | 動画編集<br>インターネット検索 | 43台 | MS Office | アドビ<br>プレミア<br>6.5 | | |
| F407 | 静止画編集<br>インターネット検索<br>レポート作成<br>オープンルーム<br>卒論作成 | 49台 | MS Office | SPSS | SAS | Photoshop<br>イラストレーター |
| F406 | メディア編集室（教材作成室） | 10台 | MS Office、画像編集等 | | | |

2004年９月に、現代社会学科新設等に伴う学生増に対応して機器を更新し、ＰＣ台数を従来の120台から147台に増設した。また、マルチメディア化に対応して、最新の高速ＣＰＵ、ＤＶＤに対応したドライブを装備し、省スペース型のＰＣ・ディスプレイを導入することにより、机上のスペースも確保した。上記とは別に、Ｆ401～Ｆ404教室にＬＡＮ回線と電源を常設してあり、300席以上の利用が可能である。

利用時間は、授業・試験期間中（月～金）については9：00～20：00としている。2004年６月の調査では、10%以上の学生が17時以降も利用している。日・祝日は原則として閉館しているが、土曜日は図書館のＰＣスペースが利用可能であり、図書館との一体利用によって、休日利用についても利便を図っている。

なお、学内ＬＡＮについては以下の通りである。

| | |
|---|---|
| 学内LAN | 幹線１Gbps光ファイバー<br>建屋内100Mbps |
| インターネット回線 | 研究室：Sinet:100Mbps<br>ＰＣルーム等学生向け：民間ISP:100Mbps |

当面の情報量としては、充分なレベルにあると考える。また、この回線は京都文教短期大学とも共有しており、機器の費用や保守についての効率を図っている。

2004年度より、マルチメディア化に対応して、普照館の３階・４階の教室にＰＣやビデオ・ＤＶＤを接続できるプロジェクタを設置し、また、普照館の館内全域（図書館エリア含む）に無線ＬＡＮを設置し、次世代の教育環境提供の準備を進めている。